

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 17 年 10 月 6 日 (2005.10.6)

【公表番号】特表 2004-536045 (P2004-536045A)

【公表日】平成 16 年 12 月 2 日 (2004.12.2)

【年通号数】公開・登録公報 2004-047

【出願番号】特願 2002-576969 (P2002-576969)

【国際特許分類第 7 版】

A 6 1 K 31/58

A 6 1 K 7/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 43/00

C 0 7 J 69/00

// A 6 1 K 35/78

【F I】

A 6 1 K 31/58

A 6 1 K 7/00 K

A 6 1 K 7/00 N

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 43/00 1 0 5

A 6 1 P 43/00 1 1 1

C 0 7 J 69/00

A 6 1 K 35/78 V

A 6 1 K 35/78 X

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 3 月 10 日 (2004.3.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

増殖、及びアポトーシスの防止及び / 又は分化の防止のためにヘッジホッグ / スムース
ンド (smoothened) 信号を使用する腫瘍細胞に対して、細胞分化と同時に、ア
ポトーシスを誘導する能力を有する薬剤を製造するためにシクロパミン、又は医学的に許
容可能なシクロパミン塩の使用方法。

【請求項 2】

前記薬剤は、In vivo において前記腫瘍細胞の細胞分化及びアポトーシスを誘導
する能力を有するように特徴付けられる請求項 1 に記載の使用方法。

【請求項 3】

前記薬剤の投与後に正常細胞が維持されるが、しかし前記投与は、前記腫瘍細胞の分化
及び / 又はアポトーシスを生じるには十分である請求項 1 又は 2 に記載の使用方法。

【請求項 4】

癌、特に基底細胞癌の治療のための請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載の使用方法。

【請求項 5】

前記薬剤は、局所投与、非局所投与、又は全身投与のために調剤されるように特徴付け
られる請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の使用方法。

【請求項 6】

非局所投与のためのシクロパミンは、水溶液の形態であり、又はリポソームに取り込まれるように特徴付けられる請求項 5 に記載の使用方法。

【請求項 7】

非局所投与は、腫瘍内直接注入であるように特徴付けられる請求項 5 又は 6 に記載の使用方法。

【請求項 8】

前記薬剤は、制御放出可能な薬剤形態であるように特徴付けられる請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の使用方法。

【請求項 9】

前記薬剤は、皮膚班上に吸収されるように特徴付けられる請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の使用方法。

【請求項 10】

前記薬剤は、18 mM のシクロパミンを含むクリーム、軟膏、ゲル、又はハイドロゲルの形態である請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の使用方法。